



セネガル国月報

2014年10月

在セネガル日本国大使館



主な出来事

内政

- 13日、セック保健相は会見を開き、セネガルにおいてエボラ出血熱の流行が終息した旨発表した。
- サル大統領は仏週刊誌「Jeune Afrique」のインタビューにおいて、大統領任期を7年から5年に短縮するため、2016年に国民投票を実施する旨述べた。

外政

- 23日及び24日、ル・ドリアン仏国防相及びエウラテ西国防相がダカールを訪問し、サル大統領及びティン国防相と会談した。また、両大臣はワッカム軍基地を訪れ、仏及び西の軍関係者と面会した。

経済

- 7日、英スコットランドの石油採掘業 CAIRN ENERGY 社は、セネガル南西部海域のサンゴマール深海鉱区において確認埋蔵量 2.5 億バレルの油層を発見した旨発表した。
- 9日、2015年度予算案が閣議決定された。来年度の総予算額は 2兆 8,690億 Fcfa で、うちセネガル新興計画(PSE)の主要 27事業には 2,150億 Fcfa が支出される。
- 28日に世銀が発表した Doing Business 2015において、セネガルの順位は 189か国中 161位。また、セネガルはビジネス環境改善に最も成果を上げた 10か国に選ばれた。

内政

1 エボラ出血熱

- 13日、セック保健相は会見を開き、セネガルにおいてエボラ出血熱の流行が終息した旨発表した(13日 APS)。
- 15日、WHO ミッションがレオポルド・セダール・サンゴール国際空港及び人道物資・要員国境通過措置 (corridor humanitaire) (当館注：セネガルは現在ギニアとの国境閉鎖並びに同国、シエラレオネ及びリベリアからの航空便及び船舶の乗り入れ禁止措置を取っているが、例外的に人道目的の物資及び要員の輸送のための国境通過は認められている)の拠点となっているワッカム軍基地を訪問し、セネガル当局の実施しているエボラ出血熱対策につき高く評価している旨述べた(16日 APS)。
- 20日、コルダ州ヴェリンガラ県のギニア国境付近にて、セネガル人 7名がギニアとの国境閉鎖令に違反したとして逮捕された。7名はオートバイを用いてギニア人の不法入国を斡旋したことを疑われている(21日 APS)。

2 前政権の不正追及

- 1日, 8月に「サル大統領は2007年に70億Fofaの残高を有していた海外口座の名義人である」と発表し, 国家元首に対する侮辱及び虚偽の情報流布の疑いでルブス刑務所に収監されていたサミュエル・サール氏(当館注:ワッド前政権下でエネルギー相を務めた)が仮釈放された(1日 APS)。
- 30日, カリム・ワッド元大臣の共犯者であることを疑われつつも, 健康状態の悪化から弁護団が審判の中止を要求していたビボ・ブルジ氏がフランスの医療機関に搬送された。同氏はセネガル当局から1か月間フランスに滞在することを認められている(1日 APS)。

3 その他

- 2014年モ・イブライム指数ランキングにおいて, セネガルの順位は52か国中第9位(30日 Sudonline)(当館注:モ・イブライム指数はアフリカ諸国のガバナンス状況を指数化したもの。セネガルの昨年の順位は10位)。
- 14日, 国民議会議長選挙が行われ, ムスタファ・ニヤス現議長(与党「進歩のための同盟(AFP)」党首)が138票中129票を得票, 再選された(14日 APS)。
- サル大統領は仏週刊誌「Jeune Afrique」のインタビューにおいて, 大統領任期を7年から5年に短縮するため, 2016年に国民投票を実施する旨述べた(12-18日付け Jeune Afrique)。

外政

1 仏語圏国際機関首脳会合(11月29日~30日開催予定)

- 政府コミュニケによると, 12月1日から2日にかけて, ダカールで第1回仏語圏経済フォーラム(FEF)が開催される予定(16日 APS)。
- 29日, ンジャイ外相は, パリでジュフ仏語圏国際機関事務総長と会談し, 同機関首脳会合について協議を行った(29日 APS)。

2 ブルキナファソ政変への反応

- 30日, ジョップ在外セネガル人閣外大臣は, ブルキナファソにおける騒乱を受け, 在ブルキナファソ・セネガル人に対して自宅にとどまり, 騒ぎが起こっている場所には近づかないよう呼びかけた(31・1・2日 Sud Quotidien)。
- ジュフ仏語圏国際機関事務総長は, コンパオレ・ブルキナファソ大統領の辞任を受け, 同大統領の決定を歓迎するとともに, 憲政回復のためにすみやかな政権委譲を行うよう求める旨のコミュニケを発表した(31日 APS)。

3 国連マリ多元統合安定化ミッション(MINUSMA)セネガル人要員の死亡

- 7日, マリ北部キダルでのロケット弾による攻撃により, MINUSMA のセネガル人要員1名が死亡した(8日

APS)。

4 新駐日セネガル大使の任命

- 8日、閣議において、新駐日セネガル大使としてシェーク・ニヨン(Cheikh NIANG)現駐米セネガル大使が任命された(8日 APS)。

5 ジョップ世銀副総裁のアフリカ開発銀行総裁選挙立候補取り下げ

- 12日、経済・財政・計画省は、2015年5月に予定されているアフリカ開発銀行総裁選挙につき、マクトル・ジョップ世銀副総裁の立候補を取り下げる旨のコミュニケを発表した(12日 SeneNews)。
- アフリカ開発銀行総裁選挙への立候補を取り下げたジョップ氏につき、10月27日から世銀アフリカ担当副総裁職に復帰することとなった旨明らかにされた(22日 APS)。

6 サル大統領のガンビア革命20周年記念式典出席

- ガンビア革命20周年記念式典に出席したサル大統領は、ガンビアとの二国間関係につき、良好である旨述べた(12日 Soleil)。

7 セネガルの国連パレスチナ委員会議長国再選

- 15日、当地パレスチナ大使館は、セネガルが国連パレスチナ委員会(パレスチナ人の不可譲の権利行使に関する委員会)議長国に再選されたことを祝福する旨のコミュニケを発表した(15日 APS)。

8 ル・ドリアン仏国防相及びエウラテ西国防相のセネガル訪問

- 23日及び24日、ル・ドリアン仏国防相及びエウラテ西国防相がダカールを訪問し、サル大統領及びティン国防相と会談した。また、両大臣は、ワッカム軍基地を訪れ、仏及び西の軍関係者と面会した(22日 APS)。

9 セネガル・ニジェール合同委員会の開催

- 28日、ンジャイ外相及びセネガルを訪問中のバズム・ニジェール外相は、2015年第1四半期にセネガル・ニジェール合同委員会を開催する旨発表した。同委員会は1989年に創設されて以来、一度も開催されていない(29日 Soleil)。

10 ンジャイ外相のアルジェリア訪問

- 30日、アルジェリアを訪問中のンジャイ外相はラマンラ・アルジェリア外相とアフリカ情勢、二国間関係等について会談を行った。ンジャイ外相は、特にマリ及びリビア紛争においてアルジェリアの果たす役割を賞賛した(1日 APS)。

経済

1 サル大統領のセネガル川流域視察

- 25日、サン・ルイを訪問中のサル大統領は、2017年までのコメの自給達成を目指すべく、現地米に対する付加価値税を廃止する旨発表した(26日、APS)。

- 27日、サン・ルイ州ダガナ県ンブドゥンを訪問中のサル大統領は、2017年中にコメの自給を達成し、輸入を停止する旨発表した(28日 Soleil)。
- 28日、サン・ルイ州ポドール県ンジュムを訪問中のサル大統領は、同県の交通網の改善のため、2015年から17年の間に820億 Fcfaを投入する旨発表した。また同大統領は、同県アエレ・ラオにおいて、食料自給の向上のため、セネガル川流域において耕作地10,000ヘクタールを整備する旨発表した(29日 Soleil)。
- 29日、マタム州マタム県マタムを訪問中のサル大統領は、同地域で産出されるリン酸工業開発のために年間6,550億 Fcfaを今後25年間にわたって拠出する旨発表した(30日 Soleil)。
- 29日、タンバクンダ州バケル県バケルを訪問中のサル大統領は、地域の農業生産者との会合に出席し、基礎インフラの不足及び老朽化、また特に灌漑農業のための電力料金の高騰などについて陳情を受けた(30日 Soleil)。

2 サンゴマール海底油田の発見

- 7日、英スコットランドの石油探掘会社 CAIRN ENERGY 社は、セネガル南西部海域のサンゴマール深海鉦区において確認埋蔵量2.5億バレルの油層を発見した旨発表した(8日 APS)。
- ファイ・セネガル石油機構(PETROSEN)総裁は、サンゴマール海底油田の活用には5年から6年を要する見込みである旨明らかにした(15日 APS)。

3 予算

- 9日、2015年度予算案が閣議決定された。来年度の総予算額は2兆8,690億 Fcfaで、うちセネガル新興計画(PSE)の主要27事業には2,150億 Fcfaが支出される(9日 Soleil)。
- 27日、国民議会において2014年度補正予算が採択された。バ経済・財政・計画相によると、同補正予算は今年度の国内総生産、財政赤字及び経済成長率の見直しを反映したものの(28日 Soleil)。

4 ビジネス環境

28日に世銀が発表したDoing Business 2015において、セネガルの順位は189か国中161位。また、セネガルはビジネス環境改善に最も成果を上げた10か国に選ばれた(29日 Quotidien)(当館注:Doing Businessは各国のビジネス環境の現状の格付け。セネガルのこれまでの順位は、Doing Business 2012:154位、同2013:166位、同2014:171位)。

(注)「セネガル月報」は、セネガルの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)